6 鹿を有効活用！ゆすはら西集落活動センター

●前田 寿夫

椨原町でも新島でも同様に、鹿の被害が多くみられています。新島では農作物はもちろん、それ以上に山の草木がかなり被害にあっていて、昨年9月の雨で若郷では新島山から土砂が流れ出し、上道線（都道211号）の約半分近くまで流れてきました。周りを海に囲まれている新島では、海にもかなりの影響が出るのではと心配です。山の緑の減少に伴い、海も枯れていくと思います。

このような理由から四万川地区で行っている鳥獣被害対策を、どのような方法でやっているのか関心を持ちました。椨原町での捕獲方法は罠や鉄砲で、新島村と同様でした。新島との違いは捕獲後の処理として、ジビエとして商品化している所だと思います。なるべく早い時間で処理するため、獣肉解体処理施設をオープンし、移動式解体車（ジビエカー）を活用して「ゆすはらジビエ」として販売していると言います。それも自分たちの決めた値段で買ってもらうそうです。

新島では椨原町と同じ事はできないと思いますが、自然確保のためにも捕獲量が上がっていくことを望みます。（ちなみにジビエカーは日本に3台しかなく、2千万円ほどだと言っていました）

7 有志の交流会で地域コミュニティの秘訣に触れた！

●木村 諭史

議員視察を〝生きた視察〟にするため、有志議員とともに、高知市で住民参加のまち作りに参加している知人を訪ねたところ、歓迎会を兼ねた意見交換会を開催できました。高知県青年団連合会長を始め、自治会長、高知市町内会連合会長、近隣の議員など多数参加してくださり、歓待を受けました。

防災センターで学んだ住民主体の防災意識の熱意、住民活動に議員が自治体を超えて駆けつける情報収集・交流の意識の高さ、運動会などテーマ性を持った交流を糸口にした婚活事業の意見交換、一度は下火になったものの再燃させた青年団活動など多数の学びがありました。

安芸市の自治防災、椨原町の公務員の当事者意識の高い運営など、今回の視察全体を貫く自治の精神・その土台にある人材活用の機運を感じられました。

委員会より

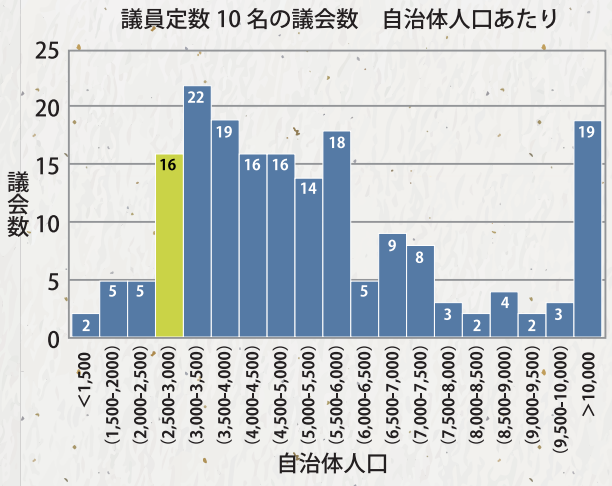
各委員会の活動についてご紹介します。

総務常任委員会

「町村議会議員の議員報酬等のあり方　最終報告」を全議員で読み込んだ後、出席議員全員で意見を出し合いました。

まずは定数削減の賛否を含めた論点の洗い出し段階であり、論点をまとめた議事録を次の会議に役立てるように整えています。今後、『議会だより』でも公開していきたいと思います。

（総務常任委員長：木村 諭史）



▲総務常任理事会に提出した資料。第63回町村議会実態調査のデータ（平成29年7月1日時点）を元に木村委員長が作成。
議員定数10名の議会としては、新島村は人口が少ない自治体に入るが、まだ一般的な範囲内ではある。人口規模のみならず、2島3地区などの状況もあわせて議論したい。